

じっくり見てみよう～仁淀川の沈下橋～



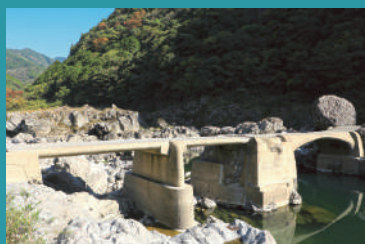
片岡沈下橋(越知町)
全長100メートル、仁淀川の中流に架かります。付近では夏場、たいまつを振ってアユを追い込む伝統の「火振り漁」が行われます。



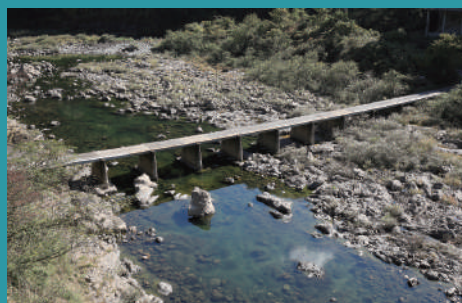
浅尾沈下橋(越知町)
映像作品のロケ地に選ばれることが多く、2021年公開のアニメ映画「竜とそばかすの姫」にも登場しました。



中仁淀橋(越知町)
越知町の中心部に近く、通行量は最多。軽自動車同士はすれ違い可能で、歩道も確保されています。欄干は増水時に取り外されます。



久喜沈下橋(仁淀川町)
1935(昭和10)年に完成した県内最古の沈下橋で、国の登録有形文化財に指定されています。



大森沈下橋(仁淀川町)
最も上流に架かり、橋桁が薄く、橋脚は細いのが特徴。すぐそばに大森橋があるため、通行する人は少なくなりました。

ぜひ見てみたい！ 仁淀ブルースポット

周辺にはごつごつとした岩場や急な階段などがあります。動きやすい服装で訪ねましょう。

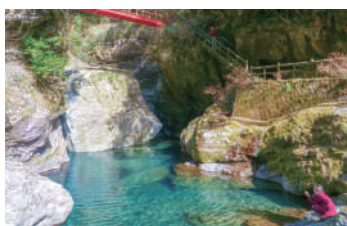
仁淀ブルー観光協議会 検索



にこ淵(いの町)
一番の見頃は正午前後。仁淀ブルーの滝つぼ全体に陽光が降り注ぐ光景は神秘的です。



安居渓谷(仁淀川町)
全長10キロに及ぶ渓谷で特に有名なのが、水晶淵と上流の砂防ダム(写真右上)。時間や季節によってブルーの色味が変わります。



中津渓谷(仁淀川町)
渓谷を縫うように設けられた約2キロの遊歩道からは、仁淀ブルーと森、巨岩、滝など変化に富んだ景色を楽しめます。



高知県仁淀川

名越屋沈下橋

なごやちんかばし
日高村名越屋
完成年:1971(昭和46)年
形式:コンクリート橋
用途:生活道路(村道)
全長:191m 幅員:3m
※3t車以上は通行不可



“川と共に生きる” 人々の暮らしが生んだ 欄干のない橋

四国三大河川の一つで、川底まで透き通った青く美しい水面「仁淀ブルー」で知られている仁淀川。その上流から下流にかけて6カ所に架かるのが沈下橋です。

愛媛県の石鎚山に源を発する水量豊かな流れは、山あいを蛇行しながら太平洋へ注ぎます。沈下橋はその名の通り、氾濫時には水中に沈むことを想定して造られており、欄干がないので流木等が引つ掛からず、水の抵抗を最小限に抑えられます。橋脚にコンクリート製の床版しよばんを載せただけの素朴な橋は、自然にあらがわず、川と共に暮らすことを大切にしてきた流域の文化を象徴する存在といえます。

最も下流にある名越屋沈下橋は、日高村名越屋地区と、いの町勝賀瀬地区を結んでいます。幅わずか3メートル、たもとに着いた順に渡るのが暗黙の了解。歩行者が車をやり過ごすための4カ所の待避所が川下側に突き出しています。水面には空と山々が映り込み、アユの魚影も。待避所から見る絵画のような風景にしばし時間を忘れます。

待避所から川面を見下すのも楽しみの一つ。



識者に聞く!

先人の知恵と工夫が詰まっています

日高村観光協会事務局長 高野 雄司さん

仁淀ブルー人気の高まりとともに、名越屋沈下橋を訪れる人は増えました。インフラとしての沈下橋の魅力は、簡素な造りの中にも先人の知恵が随所に感じられるところです。例えば、なぜ下流側だけに待避所が設けられているのか。欄干をなくした理由と同じで、上流側だと漂流物が引っ掛かるからです。いろいろな角度から橋を眺めると、面白い発見があるはず。もちろん、橋上からの仁淀ブルーの景色も必見です。

●村の案内所ひだか(日高村観光協会) ☎050-3204-1996 ●高知自動車道「伊野」ICから約20分

周辺スポット



佐川の町並み

佐川町の上町地区は土佐藩の筆頭家老深尾家の城下町。白壁の酒蔵や伝統的な商家住宅などが残り、往時をしのびながら散策を楽しめます。

佐川町上町 ☎0889-20-9500(さかわ観光協会) 無料駐車場あり



越知町立横倉山自然の森博物館

4億年前の地層が残る名峰・横倉山。その豊かな自然を原生林のジオラマ、高知出身の植物学者・牧野富太郎のフィールドワークの記録などで紹介しています。

越知町越知丙737-12 ☎0889-26-1060 9時～17時 月曜(祝休日の場合は翌平日) 一般500円、高校・大学生400円、小・中学生200円 50台(無料)



スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド

人気のアウトドア総合メーカーが運営するオートキャンプ場。テントサイトに加え、建築家・隈研吾さん設計のトレーラーハウス「住箱」も併設しています。

越知町片岡4 ☎0889-27-2622 ※利用料金等はホームページ参照

スノーピークおち仁淀川 検索



仁淀ブルー観光協会 ☎0889-20-9511

もっと楽しもう! 仁淀川流域



土佐和紙

仁淀川流域のいの町や土佐市は、越前、美濃と並ぶ日本三大和紙の産地。昔から仁淀川のきれいな水、良質のコウゾを使って紙をすいていました。紙の博物館では、昔の和紙製品や紙すき道具などを通して歴史や工程を紹介しています。



いの町紙の博物館

いの町幸町110-1 ☎088-893-0886 9時～17時 月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始 一般500円、小学～高校生100円

いの町紙の博物館 検索

清流が育んだ産業を訪ねる

もくめん

もくめんとは木を薄く削った緩衝材。現在では高級な果物やコスメなどさまざまな商品に使われています。国内で唯一製造を続ける戸田商行では、原木から完成までの見学ツアーを開催。もくめんを使ったアロマサシェ作りも楽しめます。

戸田商行

土佐市本村580 ☎088-855-0426 ※見学ツアーは約50分、1人1,500円(小学生以下不可)。

もくめん 戸田商行 検索



戸田実知子
社長が
案内します!



さらに楽しもう! 仁淀川流域



グルメ

うな重

仁淀川ではウナギの漁と養殖が盛ん。1913(大正2)年創業の老舗、大正軒では串打ちをせず、満遍なく火が回るよう一本一本、丁寧に焼き上げています。うな重・上(写真)3,850円など。要予約。

大正軒

佐川町甲1543 ☎0889-22-0031 11時30分～14時30分、17時～19時30分 日曜

うなぎ料理大正軒 検索



温泉

中津溪谷ゆの森

仁淀ブルーの景勝地、中津溪谷の入り口にある温泉宿。1棟貸しのコテージも併設しています。大浴場は木の香り漂う露天風呂も備え、日帰りでも利用できます。

仁淀川町名野川258-1 ☎0889-36-0680 チェックイン15時30分～チェックアウト10時※日帰り利用は11時～21時(700円) 火曜、水曜※水曜は営業の場合もあり 宿泊料等はホームページ参照

中津溪谷ゆの森 検索

